

学校教育目標の達成を目指した教育課程マネジメント —総評＋各校へのコメント—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami@toin.ac.jp



【略歴】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、教授を経て、2018年に桐蔭学園へ。2019年同理事長、現在に至る。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

* 詳しくはスライドの最後にあるプロフィールをご覧ください

研究開発学校制度の今日的意義を問う

はじめに

- ①研究開発学校制度は45年ほどの歴史がある。企画評価委員として約25年、20校程度の運営指導委員を務める。
- ②本制度は、生活科や総合的な学習の時間、外国語科、総合学科等の創設に寄与してきた。
- ③今は厳しい時代。現行学習指導要領の範囲内でかなりの実践が可能である。（申請時は学習指導要領改訂前、3年間はコロナ禍）
- ④開発した取組が現行学習指導要領とどう違うのか、何をどう改善しているのかを示す必要がある。（客観性・妥当性【評価？】、そして、意味づけ・価値付け【運営指導委員の役割！？】）
- ⑤継続校・新規校に課題をつなぐ。研究開発のバトンを渡す。



> 村川雅弘(甲南女子大学教授) の令和4年度「研究開発学校フォーラム」での総評資料

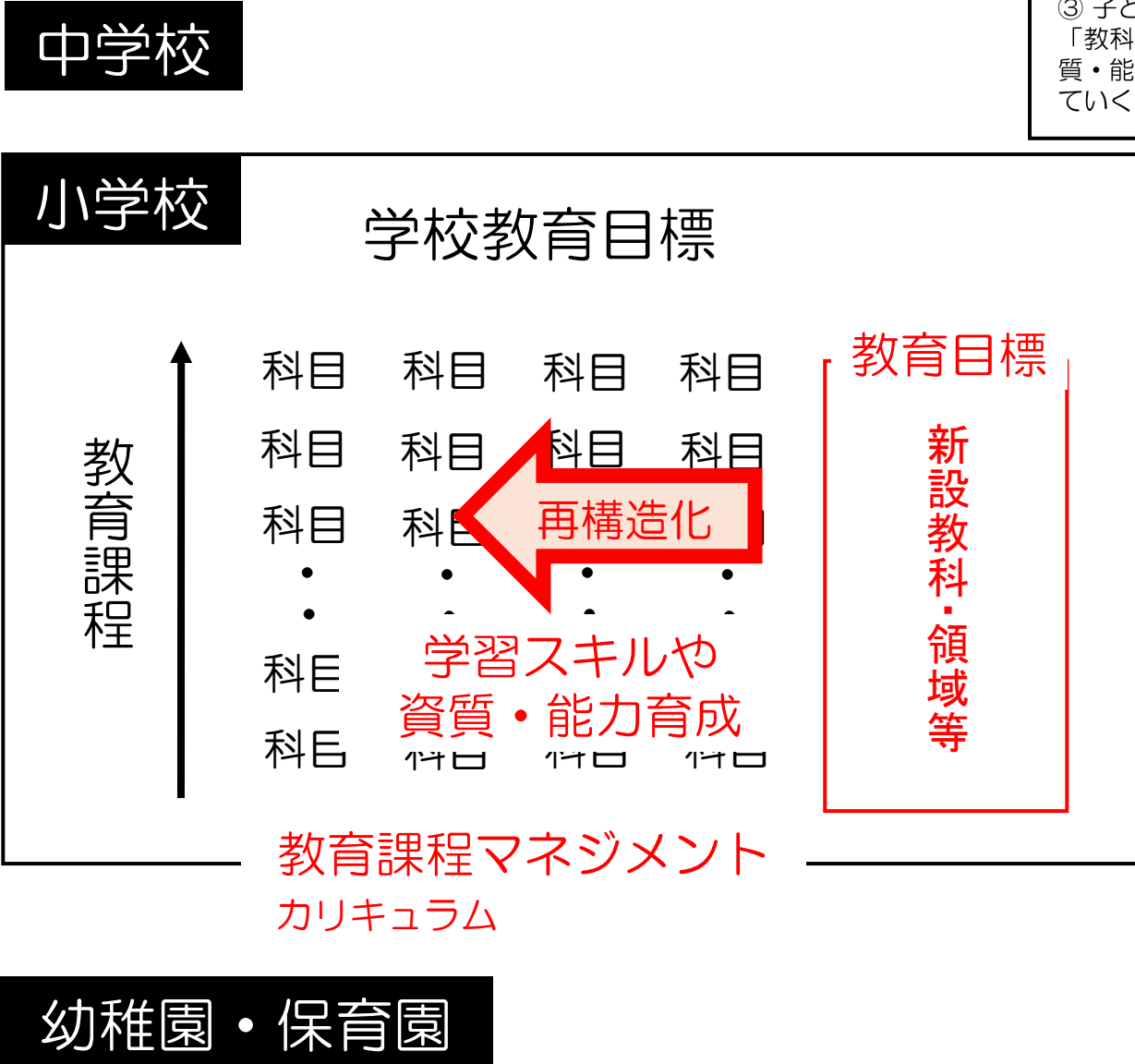
<https://curriculumdb.mext.go.jp/bc/kk/kk03/07>

学習指導要領を発展させる観点から

- ① 学校教育目標（学校独自＋学習指導要領）＋教育課程マネジメント
カリキュラム・マネジメント
- ② 学校種を繋ぐ教育課程マネジメント
- ③ 子どもを主語にした学びを推進する現行の学習指導要領において、「教科横断」は必ずしも合教科を意味しない。子どもの学びの質や資質・能力を指標とした教育課程マネジメントにより、「教科横断」していくことが望ましい

モデル

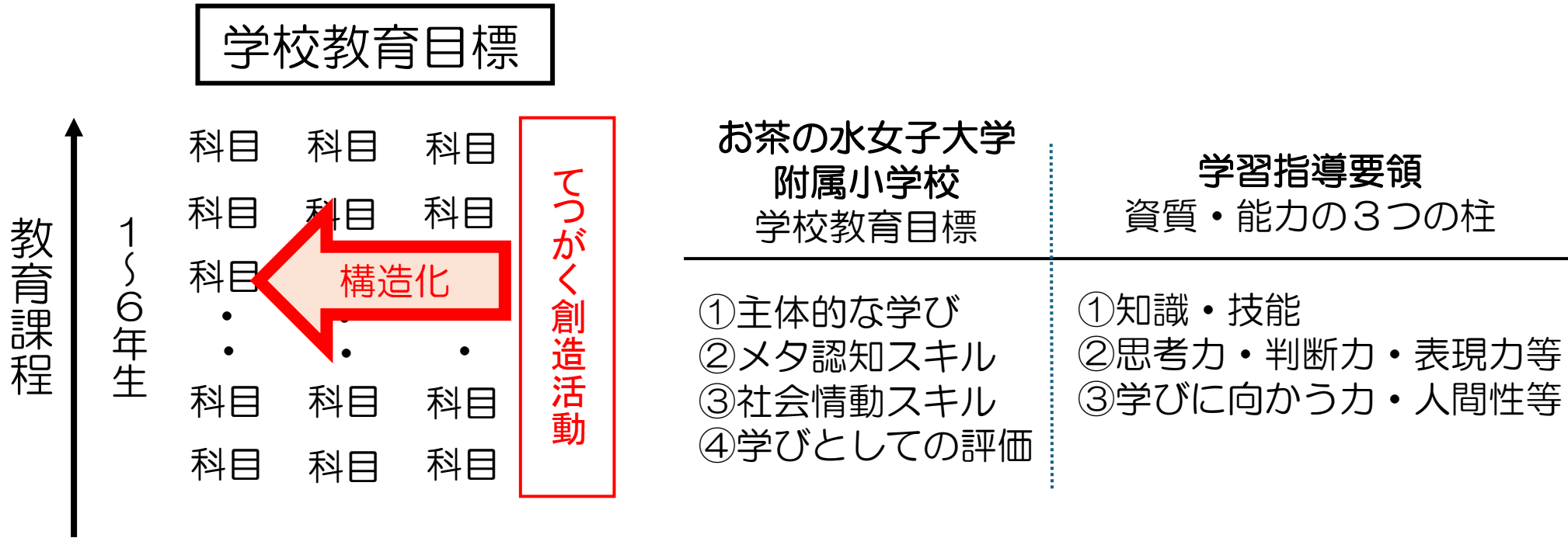
↑
学校種を繋ぐ
カリキュラム



学習指導要領を発展させる観点から

- ① 学校教育目標（学校独自+学習指導要領）+教育課程マネジメント
カリキュラム・マネジメント
- ② 学校種を繋ぐ教育課程マネジメント
- ③ 子どもを主語にした学びを推進する現行の学習指導要領において、「教科横断」は必ずしも合教科を意味しない。子どもの学びの質や資質・能力を指標とした教育課程マネジメントにより、「教科横断」していくことが望ましい

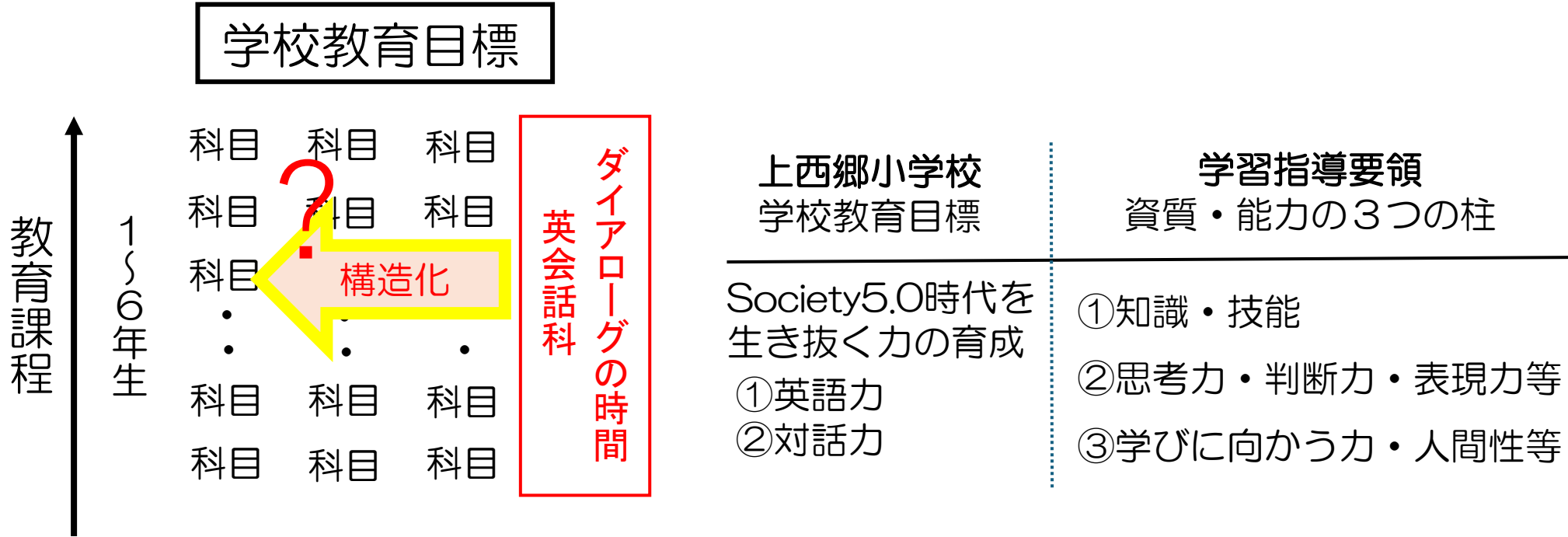
《お茶の水女子大学附属小学校の事例》



【POINT】

幅広い教育目標の中から重点・選択し、そこから教育課程を構造化

《福津市上西郷小学校の事例》



【POINT】

幅広い教育目標の中から重点・選択し、そこから教育課程を構造化

《湖東学園認定こども園にしばるの事例》

学校教育目標

五領域で編成
健康・人間関係・環境・言葉・表現

教育課程 ↑

3 ～ 5 歳	科目	科目	科目	科目
	科目	科目	科目	科目
0 ～ 2 歳	科目	科目	科目	科目
	科目	科目	科目	科目

三つの視点で編成
・健やかに伸び伸びと育つ
・身近な人と気持ちが通じ合う
・身近なものとの関わり感性が育つ

湖東学園認定こども園 教育目標

- ①生き生きと活動し、心も身体もたくましい子ども
- ②明るく素直で情操豊かな子ども
- ③よく見たり考えたりして、意欲的に創造する子ども
- ④思いやりをもち、力を合わせて取り組む子ども
- ⑤環境に主体的にかかわり、豊かに表現できる子ども

幼保小の架け橋

小学校教育

学習指導要領 資質・能力の3つの柱

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

幼児教育 幼稚園教育要領 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協働性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然とのかかわり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの感心・間隔
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

【POINT】

十分になされていないなかった幼児教育の教育課程を小学校との架け橋も見据えて構造化

《信州大学教育学部附属松本中学校 ほか2校（園）》

小学校教育

学習指導要領
資質・能力の3つの柱

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

学校教育目標

？ 幼保小の架け橋

幼児教育

幼稚園教育要領
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協働性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然とのかかわり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの感心・間隔
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

信州大学教育学部附属
松本中学校 ほか2校
教育目標

- ①自己表現力
- ②課題探究力
- ③社会参画力

教育課程	中学校	科目	科目	科目	総合化 教科等の
		科目	科目	科目	
	高学年	小学校	科目	科目	教科化 領域の
		科目	科目	科目	
	低学年	小学校	科目	科目	領域化 遊びの
	科目	科目	科目		
	幼稚園	科目	科目	科目	遊び

【POINT】

幼稚園・小学校・中学校の統合的な教育課程を構造化

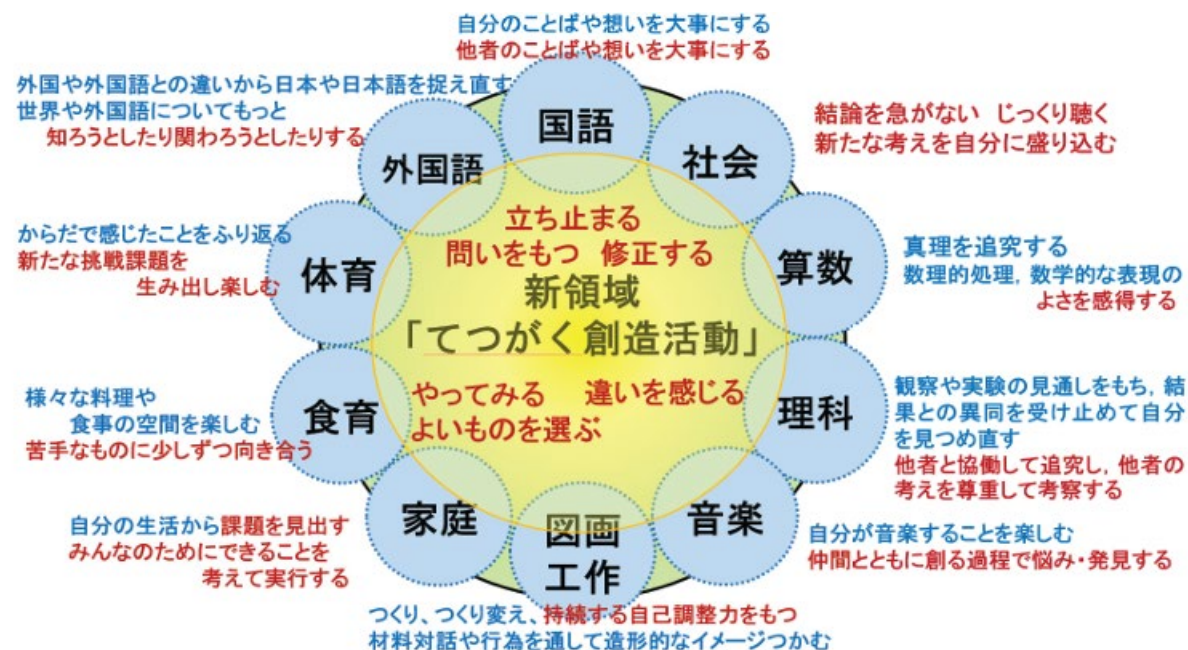
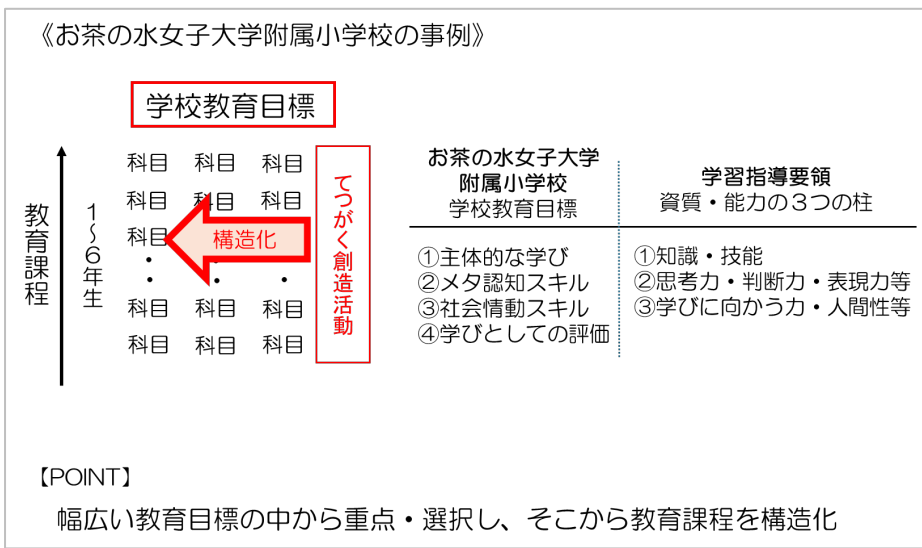
各校へのコメント

《お茶の水女子大学附属小学校の事例》

・重点・選択的にフォーカスした教育目標に向けた新領域「てつがく創造活動」の取り組みは興味深く、学術的な観点から深掘りした成果が示されている。

- ①主体的な学び
- ②メタ認知スキル
- ③社会情動スキル
- ④学びとしての評価

・他教科等への構造化をカリキュラム・マネジメントしている点も秀逸である。



- 学びとしての評価もすばらしいです

11/27 (月)	ふり返り		11/27 (月)	ふり返り
11/21 (水)	特別編集表(品)		11/21 (水)	
11/19 (木)	特別編集最終調整		11/15 (日)	休小 雑田
11/10 (金)	11/1		11/10 (金)	イベント
10/11 (水)	10/16		10/11 (水)	製作
10/6 (金)	仕上げ&発表		10/6 (金)	
10/4 (水)	9/29		10/4 (水)	
9/29 (金)	雑誌編集		9/29 (金)	
9/27 (水)	9/22		9/27 (水)	
9/22 (日)	何となくレターを書く 挿絵(イラスト)		9/22 (日)	製作 (はめ本体)
9/20 (水)	雑誌編集+アンケート てつがくのせる		9/20 (水)	製作 (はめ)
9/15 (金)	雑誌編集 9/13		9/15 (金)	材料 調達
9/13 (水)	表紙の写真撮影 9/8		9/13 (水)	材料 調達
9/8 (日)	目次を考える(新コ) 物語の編集		9/8 (日)	
			9/6 (日)	

変化する計画表

曜日	行事予定	備考	今月の計画
金	2日	⑤⑥PJ	① 6月2日 雑誌を3ページ完成 させて、表紙を作る。
月	5日	朝: <し引き ⑤対話	② 6月9日 雑誌を4ページ完 成させて、取材をとり ます。
火	6日	朝: 林間係決め	③ 6月16日 雑誌を5ページ完 成させて、巻末を作る。
水	7日	朝: 林間調べ① 林間係①	④ 月 日
木	8日	朝: 林間調べ②	2週間をふり返って このまま行けば、雑誌 「茶の水セミナー」を 発行できそうなので、 よかた。林間学校で いろいろふりよめたけど、 なんとか完成しようだ。
金	9日	朝: ジャガオリ ⑤⑥PJ	
月	12日	⑤対話	
火	13日	朝: たてわり	
水	14日	ジャガイモ掘り	
木	15日	朝: 林間調べ③	
金	16日	⑤⑥PJ	

《福津市上西郷小学校の事例》

・小学校の教育課程でSociety5.0人材を視座にしている点がすばらしいです。

※現行学習指導要領「社会に開かれた教育課程」

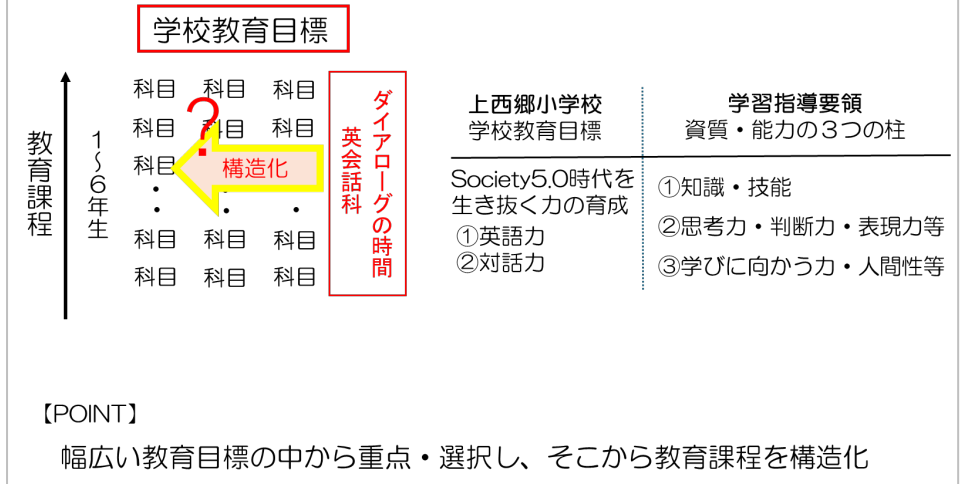
※中教審 幼保小の架け橋部会の審議経過報告
「0～18歳まで見通した学びの連続性」

※中教審答申『教育振興基本計画』（2023.3）

- ①持続可能な社会の創り手の育成（=Society5.0人材）
- ②日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

・課題にしている「対話力」は、主体的・対話的で深い学びの「対話」とやや異なり、まさにSociety5.0人材に必要な大人の「対話」が取り扱われている。Great!!!です。

《福津市上西郷小学校の事例》



はじめに… 【12月英会話重点単元～ 5・6年お互いの文化のイチオシを伝え合おう～】



《湖東学園認定こども園にしばるの事例》

- ・ 個に焦点を当てた保育記録「エピソード記録例」が秀逸です
- ・ Q. 「10の姿」のポイントがバランスよく組み込まれているか？

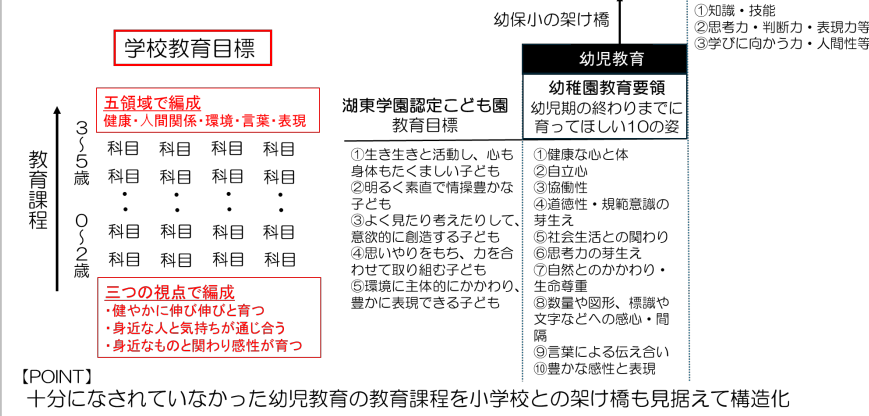
「幼児期に育てたい10の姿」を育む

「記述式の日誌」から「観点別の表記載」へ

		10月11日(月)			
	クラス	年少	年中	年長	
	主な設定保育	☆お部屋遊びor外遊び ☆朝のHR ☆〇×クイズ ☆のりもの体操 ☆制作「どんぐり」 ☆外遊び	☆HR ・うた「空にうかがまいたいな」 「手もつなごう」 ・体操「乗り物体操」 ☆冒険「ことばつておもしろい」 ☆体操「思い切り走り回ろう」 ☆外遊び	☆外遊び ☆散歩(手ほりの場所まで) ☆絵本「こどものとも10月号」	
1	健康な心と体	・元気に歌って踊ることで楽しい気持ちになる。 ・自由に遊びを設定することで、心と体を開放的な気持ちにする。	・思い切り体を動かして、心と体を開放させて遊ぶ。	・歌を歌ったり、体操をしたりして、心を開放し、一日の始まりを元気にスタートさせる。	
2	自立心	・着替えや荷物整理を自分でやろうとする。	・透明けの荷物の整理も、自らすすんで行う。	・荷物整理や着替えなど、やるべきことを自覚して、順番を考えたやる。	
3	協同性			・砂場遊びで役割分担をして、泥遊びを楽しむ。	
4	道徳性・規範意識の芽生え	・集団の中での約束を守って過ごす。	・クラスで約束を守って、安全に散歩をする。		
5	社会生活との関わり				
6	思考力の芽生え		・まつまいもを観察して、平ほりの時にどう揺るかを考える。	・遊んでいたり固っていたりする小さい子がいたら、どうするか考える。	
7	自然との関わり・生命尊重	・外遊びで植物や生きものに興味を持つ。	・畑で植物や生き物、草花を観察する。		
8	数算・図形・文字等への関心・感覚	・折り紙制作を通して、いろいろな形に折れることの楽しさを知る。		・冒険をして、音の流れやリズム感を感じ取る。	
9	言葉による伝え合い		・絵本の内容や感想を伝え合い、いろいろな見方を知る。		
10	豊かな感性と表現	・園庭に落ちているどんぐりを思い出し、自由に制作する。			

桐蔭学園幼稚園での取り組み

《湖東学園認定こども園にしばるの事例》



エピソード記録

令和4年 9月 21日 14時半頃 5歳児 3名

月のねらい 友達を感じたこと、考えたことを様々な方法で表現することを楽しむ。

事例のタイトル 「なかよしカブトムシ! 外に とぼそう!」

環境構成 感じたことや考えたことを、すぐに作ったり描いたりして表現できるように、素材(おりがみ、画用紙、カップなど)や用具(ガムテープ、セロハンテープなど)を用意する。

＜活動・遊びの様子～子どものつぶやき・会話(事実)＞

アコとユアが、園庭を見ながら「このカブトムシの尻の先に、細いギザギザがついてる」「羽を広げたらこんな感じかな」と、特徴を捉えながらカブトムシを見ていた。2人は細いカブトムシの翅を切り取り、翼に貼って遊んでいた。アコは、「アコの翼をぬいぐるみ!」「お散歩していいよ」「ユアちゃんのカブトムシとくっつけてみようよ」と伝え、カブトムシを自分とアコの翼に貼った状態で、近づけていた。アコは、「くっついた!」「わたしたちのカブトムシ、なかよしカブトムシ!」と喜び、遊ばせた。さらに、「物にもトンボとかセミとかたくさん泳いで、なかよしつくるよ!」「あ!もうたくさん泳ぐつらさ、その泳ぎを外に出してあげようよ」と、考えを伝えた。ユアも、「いいね!じゃあ私トンボかきね」と言って描き始める。アコやユア、リサ達も「わたしたちも、描きたい!」と、集まって来て、遊びが再び始まった。たたくさんの虫ができた。アコは「そうだ!もうたくさんかいたら、虫取りみたいにしていから朝もつくるよ」と、紙で翼をつくり始めた。

作り終えたら、みんなで戸外に出て、「ここがいいかな!」「一緒に木についたら喜ぶかな」と、伝え合いながら、細い虫を木に付けた。「アコちゃん、いいよ!木につけて、とぼしとるけん!そーっとあみでつかまえて!」と笑い、遊び始めた。

＜参 照＞

アコは、年少より入園した。入園当初から荷物の片付けや食事、遊びの片付け、製作など、ひとつひとつに時間をかけ、マイペースで行動していた。自分の思いもあまり積極的に伝える方ではなく、仲の良い友達ができ、その友達にはよく伝えはいたが、そこから他の友達関係が広がる様子は見られなかった。年中、年長と遊んでも、マイペースな性格は変わらず、友達関係も変わらないように見えた。

ダンゴムシが出てくる環境、アコが虫をダンゴムシ見つけて家をつくり、大切に世話をしていることがあった。そのダンゴムシが死んでしまうと、隣の方でまきかきお墓をつくってあげる姿が見られたので、命の大切さ、生き物を大切にすることがアコなりに持っているのだと以前から感じていた。その後、家庭からカブトムシを持ってきた、みんなに見せ、一緒に世話をしたり、餌をたり、気持ちいい虫だったこと生き物への関心が深まったように感じている。

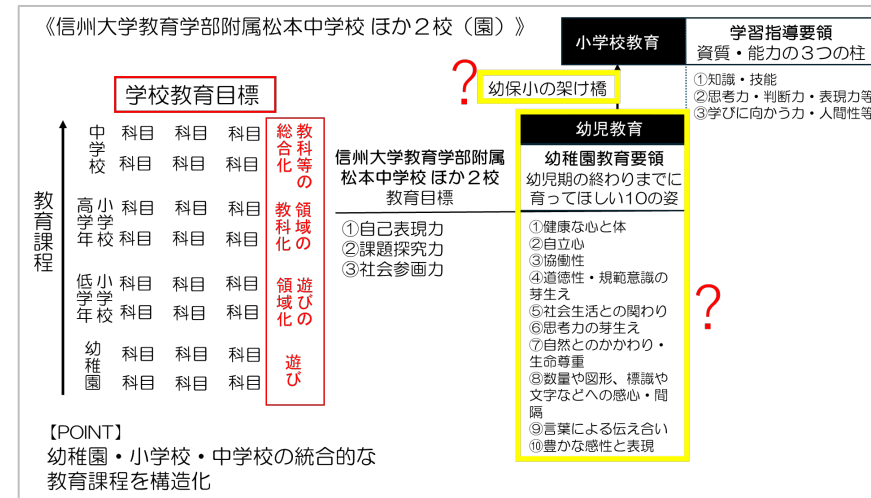
そういう経緯でアコの生き物への関心が深まったことや生き物が大好きというところで、今回の遊びが生まれたと考えられる。さらに、今回の遊でも大きなアコの育ちは、「友達と一緒に遊ぶ」である。いつもなら1人で黙々と作るはずだが、友達と一緒にカブトムシの世話をしたり、気持ちいい虫を伝えたことでも「友達と一緒に楽しむ!」「もっと遊ばたい!」という気持ちが強まり、一緒に遊び込んだのだと思う。また、アコの生き物が大好きという気持ちから、「仲よしカブトムシ」という言葉が出てきたり、「外にとぼそう!」「木につけて、あみでつかまよう!」という面白い発想を伝えた。この遊びの中で、年中生も「面白そう!」「僕もしたい!」と集まってきて、異年齢にも遊びが広がった。効果的であった。

（幼児期の終わりまでに育てほしい姿）
・身近な生き物に関心をもち、友達と一緒に感じたことや考えたことを伝え合い、遊びに取り入れることの実践を楽しむ。
・（自然との関わり・生命尊重）言葉による伝え合い
・遊びに必要なものを描いたりつくったりし、自分なりに表現することを楽しむ。
（表現の芽生え）

「10の姿」から分析

《信州大学教育学部附属松本中学校 ほか2校（園）》

- ・「3つのよさ」（自己表現力・課題探究力・社会参画力）を視点として、学校種を超えて子どもの学びを共有、見取る教師の研修体制がすばらしいです。



教師への効果

各学校園の教職員で『3つのよさ』で捉えた子供の姿を語り合ったり、校園種を超えた参観をしたりすることで、自身の子供の見方、そして、自身の教育観を揺さぶられる

幼稚園の子供が多くのことを学んで、小学校に入学してきていることや、小学校を卒業し中学校に入学すると子供がどのように歩いていくかということ、どのような姿で中学校を卒業していくのかという意識を持って、目の前の子供たちと接することができるようになった

Q.3つのよさの観点から「子どものやりたい」「自発的な学び」を捉えていくことが述べられるが、そのような姿や学びが発現するために何をしているのか、発現しない時にどのような指導やそれを最小限にする課程編成が採られているかがわかりにくい。

(まとめ) 学習指導要領を発展させる観点から

- 学校教育目標（学校独自＋学習指導要領）＋教育課程マネジメント
カリキュラム・マネジメント
- 学校種を繋ぐ教育課程マネジメント
- 子どもを主語にした学びを推進する現行の学習指導要領において、「教科横断」は必ずしも合教科を意味しない。子どもの学びの質や資質・能力を指標とした教育課程マネジメントにより、「教科横断」していくことが望ましい

最後に

- 研究開発学校の指定校へ

研究開発の指定期間が終了した後も改善・発展して持続可能なものへ

- ①以外の学校関係者 参加者へ

研究開発学校の取り組みを参考にして、次年度(以降) 応募・挑戦してほしい。毎年公募が行われている

発表校の皆さま・参加の皆さま
たいへんおつかれさまです。

プロフィール

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2019年学校法人桐蔭学園理事長。桐蔭横浜大学学長（2020-2021）。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、文部科学省総合教育政策局・日本学術振興会リカレント教育推進事業委員会（委員長）、文部科学省初等中等教育分科会教育課程部会臨時委員、電通育英会大学生調査アドバイザー、日本学術会議連携会員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞（2013年）、日本教育情報学会論文賞（2023年）受賞

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『学習とパーソナリティー「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るかー』（2018東信堂、単著）、『社会に生きる個性ー自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシーー』（2020東信堂、単著）、『高校生の学びと成長に向けた「大学選び」ー偏差値もうまく利用するー』（2021東信堂、単著）、『インサイドアウト思考ー創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へー』（2023東信堂、単著）、『高校・大学・社会 学びと成長のリアルー「学校と社会をつなぐ調査」10年の軌跡ー』（2023学事出版、編著）、『幸福と訳すな！ウェルビーイング論ー自身のライフ構築を目指してー』（2023東信堂、単著）など多数。

<http://smizok.net/>

